

「当たり前」を崩して

宮城県古川黎明中学校

三年 阿部 颯 希

「なんで小牛田って読むのやろ。」
いきなり話しかけられた私と友達はびっくりして固まってしまった。耳慣れない京ことばに対してではない。男性が言った質問に対してだ。私たちにとつてそれは「当たり前」だったからだ。

学校の帰り道のことだった。電車通学の私は、友達と電車が発車するのを待っていた。すると、「すみません。」隣から声をかけられた。聞いたことのない声に驚きながらも、声がした方を見た。声の主は品の良いスーツを着た白髪の男性だった。「なんでこの駅名は小牛田って読むのやろ。わかる?」「…え。」小牛田というのは私が毎日利用している駅の名前だ。私は男性の疑問にすぐに答えられなかった。なぜってそう読むからでしょ。「小さい牛のいる田んぼ」私は生まれてから引越しをすることもなく、十五年間小牛田に住んできた。地名に疑問を持ったことはなかった。今は美里町に変わってしまった町名でも、それは駅名や銘菓の名前として生活に根付いている。なぜなら小牛田は小牛田だから。疑問を持つ点はどこにもなかった。

そして、もう一つ答えられない理由があった。質問の答えが分からなかったからだ。自分の町の町名

の由来が分からなくて恥ずかしかった。ただ「分からない」と答えるのは申し訳なく、私はせっかくなかしてかけてくださったのだから何か答えたいと思った。男性は京都から仕事で来ていたそうで、初めて見た小牛田の「牛」の字が、なぜ「こ」と読むのか不思議だったそうだ。「こ」と読むのなら「午」が普通ではないかと。仕事の途中、老若男女様々な人に同じ質問をしたそうだが誰も分からなかったということだ。そこで私は持っている知識や、友達の力を借りて説明を試みた。昔、家畜業で栄えた町だったこと。広辞苑には載っていないが、漢字辞典には「こ」の読み方が載っていること。すると男性は満足そうに「ありがとう。」と言ってくれました。しかし、私の心には、うまく答えることができなかった悔しさが残った。

後日、私は小牛田の由来を調べることにした。インターネットで調べたり、図書館に行つて小牛田町史を読んだりした。また、駅名にもなっていることから駅に行つて調べたりもした。すると、今まで全く知らなかった町が見えてきた。小牛田町はかつて、小さな小田という意味の「小小田(こおだ)」だった。しかし、藩政時代に隣村の牛飼村の頭文字をとつて小牛田と読ませるようになった。小牛田は二つの村の名前が合わさることによってできた名前だったのだ。今まで興味がなく知らなかった事実を、知ることができた。全てを調べ終わつたとき、私はとても良い充実感を味わつた。この気持ちになれたのは、私の「当たり前」を崩してくれたあの男性のおかげだと思う。

それが普通、当たり前。その考え方を崩された出来事だった。日常生活の中で目の前にあることをたどるのみにしてきた。私にとって疑問を持たないことが普通だった。しかしそうではなく、良い疑いの

目を持つことが必要だったのだ。私たちが出会ったあの男性は見知らぬ土地に来て、不思議な駅名に出合った。そこでただの旅の通過点にすることなく疑問を持ち、私たちに声をかけた。目の前にある事実に対して、「本当なのだろうか。」「なぜなのか。」と疑問を持つ。そして、調べたり確かめたり、と行動する。そうすることで新しい事実や考え方が見えてくるのではないだろうか。

増えているブラック企業。働いている方々は自分の待遇に疑問を持たないのだろうか。政治家の間違つたお金の使い方。誰か何億円もの不正が起こる前に疑問を持たなかったのだろうか。「聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥」ということわざがある。意味は、知らないことを聞くのは恥ずかしいが、聞かないで一生を過ごすことの方が恥ずかしいということだ。私はこのことわざ以前に、疑問自体を持つ人が少なくなつていと思う。周りの意見に流され疑問を持たないのだ。しかしそれではだめだと思つた。「おかしいな。」と思うことで問題になる前に止められたことがあるからだ。身近なところだけでなく、社会にも疑いの目を持つことで防ぐことができた問題があるからだ。

一人の男性の何気ない疑問が、私に新たな考え方を与えてくれた。事実をうのみにしない。それだけで新しい事実と出合うチャンスを得ることができるとだ。疑問から行動を起こすのは大変だ。手間がかかるのに加えて、労力も必要になつてくる。しかし、今の私は知っている。探し続けた疑問の答えが見つかったときのあの充実感を。これからも良い疑いの目を持ち、自分の世界を広げていきたい。

偶然、電車の隣に座った男性の疑問から、私の小牛田再発見の研究が始まりました。幼いころから親しんできた町でしたが、知らないことばかりで驚きの連続でした。「周りがこうだから自分も同じ。」ではなく、これからも新しい視点を持ち続けて生活していきたいです。

作文を書くに当たって